

平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	人間同士の自然なコミュニケーションを支援する智能メディア技術	研究代表者名	西田 豊明
-------	--------------------------------	--------	-------

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア () 予定以上に達成した
- イ (×) 概ね予定どおり達成した
- ウ () 一部不十分である
- エ () 達成していない

意見：
中間評価での指摘も踏まえたことにより、当初の研究計画は洗練され、研究目的は概ね達成された。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア (×) 十分に貢献できた
- イ () 概ね貢献できた
- ウ () 一部貢献できた
- エ () 貢献できていない

意見：
専門分野の異なる研究者間の融合を図り、新しく会話情報学の分野を提案しつつあり、当該学問分野への貢献は十分に評価できる。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (×) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
当初計画が修正されたところがあるが、各個別分野における成果とともに、枠組みを越えた新規分野を提案していることにより、学術創成研究として有意義であった。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (×) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
成果の公表、シンポジウム開催、さらには新しく専門書：Conversational Informatics を刊行することなどにより、普及性、波及性は評価できる。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	期待以上の進展があった
×	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

人間同士のコミュニケーションを支援する知能メディア技術の研究開発において、3つの視点より接近し、概ね当初目的を達成した。特に、関係分野の研究者の融合により、会話情報学という新しい専門分野を開拓しつつあり、学術創成研究として高く評価でき、今後の新展開が期待できる。ただし、当初の研究計画は中間評価を受けた後に一部修正されたこと、また成果報告書は当初設定の目的に沿った記述を欠いていることは残念である。